



Subaru

男声合唱団

ニュース No.634

17. 10. 31

11回コンサート
チケット販売枚数 570枚
(10月29日現在)
もうひと踏ん張りを!

11回コンサート・本番並みMCつき1部・ 2部通しでの強化レッスン開催!

10月29日

□10月29日(日)10:00~17:00昴強化・定例レッスンが開催されました。岡邑さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングのあと、午前中2時間をかけて、強化レッスンとして、11回コンサート曲の1部全曲をプログラム通りに、本並先生の指揮で、「日々草」「花の歌」「ふどうとかたばみ」「君死にたまふことなけれ」「想像力」「忘れっぽい人に」を、引き続き、伊藤副指揮者の指揮で「降りつむ」「街を返せ」と「このみち」の練習を行いました。



は「広い一面に広がるさとうきび畑の風に揺れる音」・・その違いを声で表現することの確認がありました。



い上げていくレッスンは、暗譜での曲目の完成をめざし、コンサート当日への期待感をふくらませるものとなりました。ピアノ伴奏は森二三さん。参加者は全41名(司会者を含む)でした。

□連絡事項・報告事項

□組織部より

○第11回コンサートチケット販売状況:

□昼食休憩をはさんで、13:00より、本並先生の指揮で、アカペラ曲「フィンランディア」を和音の響きと声の出し方の再確認をし、続いて「ルースカエポーリエ」のリズムと「情感」の表現に力を注ぎました。

伊藤副指揮者の指揮で、「さとうきび畑」を、「ざわわ ざわわ」について、前半は「戦車のキャタピラの音」、転調の後

□再度、休憩と連絡事項報告のあと、今回のコンサートの名司会役の林久美子さんの出席をいただいて、本番通りのMC付き1部・2部全曲通しレッスンを行いました。MC・休憩を入れて、全ステージで約2時間。ほぼ本番並みの想定で、1曲ずつ歌





10月29日(日)現在:570枚! まだまだ足りません! 危機的状況!

(10月末で1,000、11月末で1,300目標)

個人目標(申告)の合計:900枚では20%不足しています。もうひと踏ん張りしていただき、声をかけ拡めてください。

1人30枚以上の売り上げを!

○10月28日(土)昂11回コンサートの開催の宣伝に、「吹田おらが町コンサート合唱団」と「レガーテ」を訪問してきました。チケット販売を兼ねて!!(山本宏司さん)

11回コンサート「このみちをゆこうよ」のテーマのもと昂がコンサートをする趣旨を説明し、チケットの売り上げに協力をいただきました。山本さんの健闘に団員は感動の拍手をおくりました。

□ 技術部より

12月3日(日)のコンサートまでレッスン日はあと6回です。

(11月5回、12月1回)

11月3日(金) 18:00~20:30 定例レッスン

11月5日(日) 13:00~15:00 正団員強化レッスン

15:00~17:00 特団レッスン(特別団員と共に)沖縄4曲

11月17日(金) 18:00~20:30 定例レッスン

11月19日(日) 11:00~15:00 強化レッスン 15:00~17:00 特団レッスン

11月29日(水) 18:00~20:30 強化レッスン(新規追加日)

12月1日(金) 18:00~20:30 定例レッスン(通しレッスン)

□ 岡邑さんと若園さんから、「うたごえ新聞」10月23日号の紹介と読後感想の報告がありました。

岡邑さんから、関西紫金草合唱団が「紫金草物語」のコンサートを開催した7月7日に「核兵器廃絶国際条約」が国連で決議されたこととともに、「今年のノーベル平和賞に ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)が受賞したこと、ICANと連携して活動を続けている日本原爆被災者団体協議会が2020年までに「ヒバクシャ国際署名」を数億集めることを目指す核兵器廃絶の運動を…」の記事を紹介されました。

また若園さんは、「読者の声」欄に「99歳の日本画家」の題名で、「個展よりも憲法9条が大事」と99歳の日本画家堀文子さんが「9条の会」への熱心な支持者であるとの紹介記事を投稿されています。

□ 先日、奥様を亡くされた高田さん(T2)が久しぶりに昂レッスンに参加されました。

“君死にたもうことなかれ”のことばが私の今の心境だと述べられました。



昂入団体験記

半世紀を過ぎても、まだ昨日のように鮮明に覚えている一つのシーンがあります。小学校を卒業し、私は両親に連れられて、山口県の宇部駅のホームに佇んでいました。3月の肌寒い夜です。父親は貧しい炭鉱労働者でした。戦後の日本経済の復興に貢献した石炭産業も、この頃はもう既に斜陽産業化し始めていました。父親は会社を退職し、新しい職場を求めて、大阪に出て行こうとしていたのです。

小学校を卒業したばかりの12歳の少年は、それに伴い、生まれ育った故郷を離れ、友達の一人もいない大都会の中学校に入学することになったのです。暗闇でした。

その時、初めてクラスを担当したばかりの20代の女性の先生が、私たちの見送りに来てくれたのです。そして私に、カスミソウの花束を手渡したのです。「You are in my prayers」と添文がありました。

当時の私に、その意味がわかるはずはありません。先生の心からの「深い思いやり」を感じたのは、それから数年後のことです。以後、これは私の人生の羅針盤となりました。

今年の4月、大学を卒業してから43年間、フルに働いてきた仕事からやっと解放されました。非常勤勤務となり、少しゆとりが生まれました。地域の小学校の生涯学習で、コーラスをしていたので、参加してみました。そこで、男声合唱団「昂」のコンサート案内・団員募集のチラシを、ちらっと見ました。その時には、何の関心もありませんでした。合唱の経験も全くないような人間が、こんな立派な合唱団に入れるはずなどないと思っていた。しかし、家のパソコンで、締め切り期日に遅れている短歌作品を作っているときに、ふと、この「昂」を思い出し、ホームページを開いてみました。

最初に目がいったのは、平均年齢72歳、「ほう、私より高齢者の方がたくさんいるのか。みんながんばっているんだなあ」という感慨でした。次に、2009年の中国・南京での平和友好コンサートです。天安門事件の余韻がまだ残る中国・上海で、3年間駐在員をした時の記憶がよみがえりました。日中友好を自分の後半生の一つとしている私に興味を引かせました。とりあえず、活動風景を見ようと思い立ちました。

見学だけで終わるつもりでしたが、いきなり紹介され、入団せざるを得ない状況になりました。数々の賞を獲得したハイレベルの合唱団ですので、いずれ「おまえみたいな下手くそな奴、辞めてしまえ」と言われるから、「まあいいか。その時に辞めればいいや。」と割り切りました。しかし残念ながら、現在に至るまで、誰も言ってくれません。

今の私の課題は、12月のコンサートまでに、20数曲全部の暗譜ですが、たとえ暗譜できなかつたとしても、心からの「深い思いやり」を込めて、歌いたいと思います。

コンサート曲は、自分が歌えるかどうかの技量は別ですが、雄大な大自然を眼前に広げる「ボルガの歌」「ルスカエ・ポーレ」、戦争の悲惨さを詩的に物語る「さとうきび畑」など、心に迫る曲で溢れています。

(K. K)

今年昂に入団されたメンバーのお一人(K・K)さんから、「昂入団の体験記」を書いていただきました。このような思いをもって昂に入団され、難曲の数々に挑戦されているK・Kさんです。BRに所属。皆さんのサポートお願いします。(昂ニュース編集子)



11月3日(金)昂レッスン前に集まってください。



主催 市民合唱団グリーンコーラス 問合せ先: 野上正恵 [090-5968-9431]



「サム・トゥツ・ソリ」昂レッスン日!(残念!)
お知り合いに広めてください!

